

■米国：ニューヨーク州、2040年までに100%のクリーンエネルギー化目標

2019年1月16日付の専門誌によると、ニューヨーク州のクオモ知事は2019年の施政方針演説で、2040年までにニューヨーク州の電源を100%クリーンエネルギー由来にすると宣言した。あわせて、2016年に制定された「クリーンエネルギー基準」(CES: Clean Energy Standard) (原子力に対するZECと、再エネに対するRECの2つの施策からなる)についても、再エネ使用目標を2030年までに50~70%に引き上げる。クオモ知事は、この目標を実現するための具体的な手段として、(1) 洋上風力発電は2030年までに240万kWとしていた計画を、2035年までに900万kWと4倍に大幅修正、(2) 太陽光発電は2023年までに300万kWとしていた計画を2025年までに600万kWと倍増に修正、(3) 大規模の陸上風力と太陽光発電を2倍以上にする、(4) 既存の再エネ電源の最大活用、(5) 2030年までに蓄電池300万kWを設置する、としている。またクオモ知事は、州北部で開発される大規模太陽光発電、風力発電、蓄電池の20プロジェクトを選定し支援するため、15億ドル(約1,700億円)の資金を拠出するとも述べた。カリフォルニア州は2045年までに100%クリーンエネルギー化するとの目標を掲げており、この目標と比較しても、ニューヨーク州の目標は野心的な目標となるとクオモ知事は述べている。